【第 86 回新制作展】　五十嵐画伯の入選作品鑑賞会のご報告

猪狩（記）　2023 年 10 月 3 日

日　時： 2023 年(令和 5 年)　9 月 29 日(金)　11 :00～

場　所： 国立新美術館

参加者：五十嵐画伯、織内（正）君、高萩（良）君、小川（浩）君、高木（祐）君、
原君、添田君、石澤君、猪狩

まだ記録的な暑さが続く最中、午前 11 時に国立新美術館正面入口に集合しました。

織内正博君は、遠路いわきからの参加です。

五十嵐画伯の先導で、まず 2 階に上がり受付へ。

入場料 800 円は 65 才以上は無料で、規則では年齢証明書提出が必要なのですが風貌で一目瞭然。五十嵐画伯の付き添いもあり、受付の方も笑顔の緩い対応で無事通過。

早速、五十嵐画伯の作品前に直行し、鑑賞開始。

200 号キャンバスの大作。題名は「unbalanced nest」

蜂と蜂の巣が五十嵐画伯の長年のテーマになっており、テーマの蜂については、以前に奥さんが足長蜂に刺されて入院した出来事が由来と聞いています。

画伯本人の説明によれば、向かって右側が人工物(ビルディング等) 、左側が自然(蜂の巣、大地)の対比になっており、人工物が自然を侵食していきながらも併存のアンバランスを表現しているとの事です。

ひとしきりの鑑賞後、

大きな 200 号の絵は何日で書き上げるのか?

どうやって、こんな大きな絵を仕上げていくのか？

以前は黄色が際立っていたが、最近そのトーンが変わった理由は？

何故、時計が書かれているのか？

各々が、思い思いの素人なりの質問を画伯に投げかけていました。

それらの質問に五十嵐画伯は、一点、一点,丁寧に答えていました。

作品の前で記念撮影を行った後に展示されている他の作品も鑑賞。心血を注いだ作品が広い展示場を埋め尽くしており、静寂の中ながら圧倒されました。

女性の作品も多く見受けられ、鑑賞者には外国人の姿も目立ちました。集合写真も若い外国人女性に撮って貰ったものです。(英会話が堪能なメンバーの交渉成果か?)

２階絵画部を一巡後、一般の人は乗れない専用エレベータで、“関係者” 五十嵐画伯のガイドで１階の彫刻会場へ。

多様な人物、動物、抽象物の大小彫刻作品が並べられており、材質も木材・金属・プラスチック・セメント・ガラス・紙といった、ありとあらゆる材質から出来ています。

色彩も併せ様々な有限の形をつくり出していく、人間の 創造性の豊かさに改めて感銘を受けました。

休憩場所で少し休みを取った後、千代田線に乗って祝賀会会場のある湯島へ向かいました。

レストラン飛鳥へは午後 1 時前に到着。まだ飛鳥のランチ繁忙時だったので、店の前でしばし待機した後に一同が輪になって座れる場所を確保しました。

ここにも、壁に五十嵐画伯の小作品が掛かっています。

ビールとランチを注文。

ここでやっと五十嵐画伯の入選を祝う乾杯です。

皆が集まれる機会を作ってくれた五十嵐画伯に感謝の気持ちを伝えた後、美術館での質問の続きが続きました。200 号キャンバスを何枚も置けるというからどれだけ広いアトリエをお持ちなのか、皆、興味深々です。

次回もみんなが集まれる様にまた入選して欲しいとの希望を伝えると、分かったと笑顔で応える五十嵐画伯。

また、後期高齢者ならではの関心事、健康問題では、夫々が抱える持病について手術・入院・治療の内容が話題となり、皆、我が事のように聞き入っていました。

コーヒーを飲みながら、お互いの情報交換と歓談をたっぷり楽しみ、コロナ禍で集まれなかった時に比べての解放感に浸りながら、自由に集まり話せる事の有難みをつくづく感じました。

次回の鑑賞会に会える事を期待しつつ、午後３時前に散会となりました。

以　上